

第12話 インドの結婚式

タクシー運転手のジャスパー・シン・アルワリアは敬虔なシーク教徒であり戒律を守ってターバンで髪の毛を覆いひげも剃ることをしません。北にあるパンジャブ州の農家の出身で故郷に両親と妻子を残し単身デリーで働き家族の生活費を稼いでいるのです。毎朝仕事の前にシーク寺院にお参り行くそうで僕に宗教は何かと聞くので、一応仏教徒だけど毎日 temple には行かないかと答えるとすこし不思議そうな顔をしていました。彼は自分にはシーク教の教えがあるから貧しくても心穏やかに暮らしていけると言うのです。

アルワリアの田舎にいる弟が結婚するというので招待をされ車で7時間かけて夫婦で行きました。ご存知かと思いますがインドの結婚式は大変な騒ぎで村中の人が集まって楽団の演奏に合わせて踊ったり料理を食べたりで楽しいものです。僕達はなんせ日本から来たお客だということでV.I.P扱い、男女のテントは別々なのですが一緒のテントで村の長老の横に座り皆があいさつに来るのでにっこり笑って握手をしておりました。(もちろん言葉は通じません。)

ところで結婚式にはアルワリアの友達が運転する車で行ったのですが途中で人をはねました。こちらの車を見て道を渡るのを断念したと思えたインド人が突然走りだしボンネットにぶつかり空中に跳ね上げられました。アーこれで結婚式も行けないと思ったのですが、なんと回りの人が彼を抱えて逃げるように去っていき友達の運転手も車から降りもせずガン飛ばして走りだしました。

解説をしますとこちらは髭モジャのインド人が運転する一見高級車(エアコンが付いていました。)で乗っているのは外国人、無理な横断をした彼に損害でも請求されたら大変だからここは早く逃げた方が良くということだったようです。人をはねた事よりその後の展開に本当に驚きました。写真は結婚式のために雇った楽団の一行がやってきたところです。

